

同援だより

2023年

● ● ● ● ●
秋季号 (197号)

● 主な内容 ●

新役員挨拶

令和5年度永年勤続表彰

施設通信



「もうちょっとでのぼれるよ！」同援さくら保育園



少子化対策（2）

理事長 飯山 幸雄

前号で岸田内閣の少子化対策の方向性を概観し感想を簡単にコメントしましたが、ここではまず、8月末に締め切られた政府の令和6年度予算に係ることも家庭庁の概算要求について概要を見てみたいと思います。要求額は一般会計1兆5,271億円、年金特別会計の子ども・子育て支援勘定3兆3,614億円の合計4兆8,885億円ですが、「予算編成過程で検討」となっている事項も多く、来年度予算の最終的な額がいくらになるかは不明です。要求のポイントとして挙げられているのは、①結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の実現、少子化の克服 ②全てのこどもに、健やかで安全・安心に成長できる環境を保障する ③生育環境にかかわらず誰一人取り残すことなく健やかな成長を保障する というものです。これに沿って、例えば「保育の受け皿整備・保育人材の確保等」や「誰でも通園制度の試行的実施」を含む『総合的な子育て支援』、『地域の子ども・子育て支援、こどもの居場所づくり支援の推進』、『障害児支援体制の強化』等の各領域の事業が積み上げられています。この中には関係者の念願久しい保育所の保育士配置基準の改正（1歳児6対1から5対1へ、4・5歳児30対1から25対1へ）などが含まれています。

少子化対策が日本社会にとって重要な課題となっているのは、言うまでもなく、現状のままこども（こども基本法が成立しこども家庭庁が発足したにも関わらず、政府の同じ文章の中においてさえ「こども」・「子ども」が混在していますが、本稿では「こども」に統一します。）の出生が減って行けば、人口減少就中（なかんずく）若い人が減り社会の活力が大幅に低下し、最終的には社会が維持できなくなるのではないかと危惧があるからです。こどもを生む生まないは優れて個人的な考えに基づくことであり、第三者が干渉すべきことではありません。しかし、上記のポイント①から③に掲げられていることが実現すれば、個人の考えも生む方向にシフトしていくと考えられるでしょう。

こどもに関する各種事業の具体的な担い手は、主に市区町村や私たち社会福祉法人をはじめとする事業者です。同胞援護会として、今運営している保育所、児童養護施設、母子生活支援施設等こどもにかかわる施設の内容充実にも努めることは勿論ですが、私は、さらに地域におけるこどもの居場所づくりや孤立しがちな若くは交際範囲の狭くなっている子育て中の方（出産前の方も含む。）の相談・集い・憩い・交流の場づくりにも積極的に取り組みたい（スポット的なものではなく、恒常的なものとして。）と思っているところです。なお、障害児支援に関しては、現状ではノウハウが十分とは言えませんので、今後の課題としたいと考えております。

こどもに関する各種事業の具体的な担い手は、主に市区町村や私たち社会福祉法人をはじめとする事業者です。同胞援護会として、今運営している保育所、児童養護施設、母子生活支援施設等こどもにかかわる施設の内容充実にも努めることは勿論ですが、私は、さらに地域におけるこどもの居場所づくりや孤立しがちな若くは交際範囲の狭くなっている子育て中の方（出産前の方も含む。）の相談・集い・憩い・交流の場づくりにも積極的に取り組みたい（スポット的なものではなく、恒常的なものとして。）と思っているところです。なお、障害児支援に関しては、現状ではノウハウが十分とは言えませんので、今後の課題としたいと考えております。

新任役員挨拶



常務理事 横山 宏

本年6月末に東京都同胞援護会の理事会・評議会において理事に就任し、常務理事にご選任いただいた横山宏と申します。

これまでの私の福祉との関わりとしては、本年4月まで東京都社会福祉協議会に7年間以上在職し、また現場での経験は、30年も前になりますが都外の児童養護施設で施設長として2年間勤めていたのみです。そんな私にとって同胞援護会は、都内に多くの施設がある古くからの社会福祉法人としての印象だけで、具体的には何も知りませんでした。

しかし着任して直ぐに全施設を見て回りましたが、事業が福祉のみならず医療も含めて非常に広範であり、昭和郷というユニークな福祉施設の集積地もあって、戦前から福祉事業をリードしてきた歴史など、知れば知るほど驚くことばかりでした。その際、施設長さんとも個々に接する機会が

ありましたが、それぞれが施設運営に努力され、利用者の皆様のサービス向上に工夫を凝らしていること、大変心強く思われました。

着任してから3月になりますが、同胞援護会の事業に関われること誇りに思うとともに、その責任の重さを改めて実感しております。

ところで東京の福祉事業は、平成からの規模拡大とともにサービスの細分化や専門化が進む一方、それらを担う専門人材の確保や育成に苦慮するなど課題が山積しています。これらは、コロナウイルス感染症の流行で深刻さを増し、ウイズコロナの今、一層顕著になってきました。今後、行政に代わってNPOや企業が存在感を示すなかで、社会福祉法人としての同胞援護会に対しては、行政にはできない、またNPOや企業では供給が不十分な分野のサービスの提供が求められてきます。そのため既存事業を絶えず見直すとともに新たな事業へのチャレンジなど、地域福祉の先端を目指す努力の継続が必要になります。微力な私ですが、これらの取組に少しでも資することができればと願っております。



理事 雑賀 真

この度理事に就任しました雑賀です。

ご縁をいただき歴史ある東京都同胞援護会で理事を務めさせていただくことになりました。

これまで東京都職員として福祉事業や東京オリンピック関係などに携わってきました。現在は公益財団法人鉄道弘済会で、障害、児童養護等に携わっています。

都では児童養護施設や児童相談所に勤務しました。千葉県にある児童養護施設の時は、1歳の子どもと家内と3人で公舎に住み、24時間365日施設の子どもたちと生活をともにしました。土曜日は釣りに連れていき、日曜日は一緒にサッカーをやっていました。今でも子どもたち一人ひとりの思い出が鮮明です。その中で子どもたちから多くのことを学びました。7年ほど前から当時の子どもたちと忘年会を行っています。

2000年の社会福祉基礎構造改革により、介護

保険制度が始まるとともに、措置から契約への切り替え、株式会社などさまざまなサービス提供主体の福祉の世界への参入などが行われました。サービス量は飛躍的に拡大しましたが、国基準のレベルが低いこともあって、質的には玉石混交の状況ともなりました。

福祉はリアリズムの世界です。ご利用者の状況と支援側の体制とを十分に考えながら一人ひとりであったサービスの提供が必要です。福祉に対するニーズが総合化する中で社会福祉法人に対する期待はますます大きくなると同時に、地域貢献など幅広い役割が求められています。他方、新たな福祉需要に対する制度の創設を見ると、制度設計が十分に練られておらず、現場で工夫しながら進めていかねばならないことが多くなっている気がします。

今後、多くの同胞援護会の現場に学び、微力ではありますが、誰もが生き生きと人を護り助け合う世の中の実現に向けて関わらせていただきたいと考えています。

よろしく願いいたします。

役員・評議員

役員 (任期: 令和7年6月 定時評議員会の終結時まで)			
理事長	飯山 幸雄		
常務理事	横山 宏		
理事	品川 卓正	小林 一己	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳
監事	田代 秀之		
	鈴木 道生	根本 昌廣	

評議員 (任期: 令和7年6月 定時評議員会の終結時まで)	
五十嵐力平	本山美八郎
川向 良和	堀 茂
岡橋 生幸	飯村 史恵
田中 康道	吉村 晴美
細谷 訓之	七島 晴仁

本会職員による法人内副業について

2020年度に取り組んだ「給与・人事制度改革プロジェクト」で実施した職員アンケート結果に「副業を認めてほしい」という意見が複数ありました。さらに毎年職員に実施する異動希望調書には「他の施設で経験してみたい」と希望する職員も少なくありません。

他社等での副業は、働き過ぎによる心身への影響及び労務管理上の課題もあり、簡単には解禁できない事情があります。それに対して法人内での副業であれば、送り出す側と受け入れる側双方の施設長が職員の労働実態を把握でき、健康を害することがないように配慮することが可能です。

新型コロナウイルス感染症の感染者がわが国で初めて確認された2020年1月から今年で3年経ちました。この間施設内でクラスターが発生した際には職員の応援派遣を行うなど、施設間で相互協力体制が築かれました。法人内の施設等で相互応援ができる職員を確保・育成することは、今後想定される大規模

災害発生時にも有益であると考えています。

近年福祉人材確保が困難な状況にあります。昨年度には施設長も法人内副業に賛同していただき試験的導入に踏み切りました。豊島区にある同援さくら保育園は、休日及び4時間延長保育を実施しているため職員の確保に苦慮していましたが、副業の呼びかけに対し保育支援系グループ内で希望する職員がいたため、初の法人内副業として実現しました。

現在では11施設で法人内副業の受け入れを募集しています。児童養護施設の職員が母子生活支援施設のお子さんの支援を行うなど、異なる種別の施設やグループから副業も始まっています。この取り組みが副業希望者や他施設業務に興味のある職員の活躍できる機会となるだけでなく、職員の視野や専門性が広がると同時に、本会施設・グループの絆がさらに深まることを期待しています。

(総務部長 魚津 亮太)

事例紹介

同援さくら 保育園

同援さくら保育園は豊島区の区立南池袋保育園の民営化に伴い、2006年に開設しました。特別事業として4時間延長・休日保育・病後児保育・一時保育を行っています。コロナ禍以前は全ての事業の利用者が多く、人手が必要な為、108名の定員に対して多めの職員配置をすることができていました。しかし、コロナ禍になり全ての事業の利用者が激減、その状態が約2年続きました。その間に休日のみ働いてくれていた非常勤職員が退職、正規職員の異動・退職等が続き、以前に比べると正規職員数が3人減っていました。そして、残念ながら職員募集を行っても応募がほぼない状態でした。特に休日保育は、他園の園児が休日のみさくら保育園を利用し、また乳児クラスの利用が80%を占めるため特に人手を必要としました。始めのうちは非常勤職員の勤務帯を、正規職員が半日ずつ超勤で働く体制を組んでいましたが、長期にわたると疲れも出始めていました。そんな時に総務部長から法人内副業のお話を伺い、「まずはさくらさんから始めてはどうか」と提案していただきました。誓約書やスケジュール表等を作り、令和5年2月11日からスタートさせていただきました。今までに法人内の10名の保育士さんにお手伝いをして頂きました。職場は違えども、やはり現役の保育士さんなので即戦力で本当に助かっています。今後もお手伝いしてくださる方はご連絡をお待ちしております。

(同援さくら保育園 園長 阿部 英子)



社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

令和5年度永年勤続表彰



永年勤続表彰式が令和5年10月4日、5日に執り行われました。30年勤続5名、20年勤続9名、10年勤続33名の方々表彰されました。今後益々のご活躍をお祈りしております。



■ 30年 永年勤続を迎えて

「心に残っている出来事」

みなと保育園
のだもとこ
園長 野田 泉子

平成4年8月1日からむさしの保育園にお世話になりました。「川沿いを歩いてくると橋の横にある建物の1階が保育園です」と説明され面接に向かいました。

午睡時間だったので、子どもの声は聞こえず、もちろん園庭で遊んでいるお子さんもいません。2階以上の部屋のベランダにはたくさんの洗濯物があり、「ここは、団地なの?」「ここで働くの?」と一旦近くの公園に行き考えました。お話だけでもと園にお邪魔すると、建物は古く午睡時間でもあったので園内も薄暗く更に迷ったのを鮮明に覚えています。何もわからないまま保育士がスタートしましたが、当時は幼児保育園だったので、保育士5名で日々のローテーションを回すなど、過酷な勤務でした。4歳児担当ですと言われても、出来ない事だらけで周りの先輩との差を身にしみて感じる毎日でした。園長の前でお遊戯の踊り振付の確認をするときには、1番の歌詞・2番の歌詞に合わせた振付を求められ夢に出てくる程でした。運動会・発表会と盛大に行われる行事に押しつぶされそうになりながらも頑張ってきたのは先輩たちが助けてくれ話を聞いてくれたこと、歳の近い職員たちと相談し合えたこと、また経験のない私を担任として迎えてくれた子ども達、保護者の皆様の温かな存在が何よりも大きかったと思います。

今でも忘れられないのは、むさしの保育園にはアヒル2羽・鶏・ウサギ数匹が飼育されていました。小さなアヒル専用の池の水を抜き、子ども達と毎日餌やり当番です。連休も交代で掃除と餌当番に行き

世話をしていたのに、なぜか保育士ばかりを攻撃してくるアヒルや鶏。必死で園庭を逃げ回り、お世話したのが懐かしい思い出です。

今、振り返ると未熟な保育だったと思います。当時の子ども達に申し訳ない気持ちですが、私自身が一番楽しく充実していました。あの時のむさしの保育園での経験がなければ、工夫したり考えたり、何よりも楽しんで保育をするという事をせずに過ごしてきたかもしれません。私にとって貴重でかけがえのない経験や思い出を今の職員たちにも少しでも分けあえればと思っています。

保育士になるまで小さな子どもと関わることの少なかった私は、はじめは戸惑いもありました。しかし、保育室に入るなり、名前を聞かれたり一緒に遊ぼうと手を引っ張って誘ってくれた子ども達がいたからこそ子どもの発見や学びに繋がり、今まで保育士が務まっていると思います。今は現場から離れていますが、朝、日中、帰りと事務所に遊びにきてくれる子どもがたくさんいます。子ども達が『事務所に行きたいな〜』と言ってお話をしたり気分転換が出来る空間になっていることを嬉しく思います。

今まで様々な学びをくださった同胞援護会、私に関わってくださった素敵な先輩や同僚に感謝いたします。ありがとうございました。



■ 20年 永年勤続を迎えて

「仕事とリフレッシュ」 事業局 印刷係長 沢田 弘二郎

事業局には営業、編集、印刷、製本等の仕事がある中で私は印刷を担当させてもらっています。入職して20年、この度永年勤続の表彰を賜りました。大変光栄に思っています。入職当時は指示された事をこなすだけで手一杯だったのですが、年月を経て能動的に仕事ができるようになってからは充実感も増えました。

しかし永く仕事を続けていく過程では、良い事もあれば失敗やトラブルによるストレスも生じてきます。リフレッシュが必要な時、皆さんはどのような方法をお持ちですか。趣味に没頭する人、憧れの場所へ旅

行する人、小さいお子さんがいる人は寝顔を見るだけで癒されるようです。私の場合は、休日の朝の散歩です。一番簡単な方法です。歩き始めの時点での迷い事が到着時には解決している事がよくあります。迷い無き状態で休日明けの仕事に臨めますので、これはやめられません。

最近、雇用の流動化が叫ばれている中、永年勤続は対義のようです。どちらにも良さはあると思いますが働く環境というのは重要で、私には同援が合っていたという事です。



■ 10年 永年勤続を迎えて

「同援との出会い」 フジホーム 介護職員 馬場 里依

私が福祉を志したきっかけは、中学生の時の職場体験です。当時、保育園を希望しましたが人気が高く、特別養護老人ホームに行くことになりました。そこでの体験が楽しく、将来はお年寄りの方と関わる仕事がしたいと思い、福祉学部のある学校に通いました。

2013年4月当法人に入職し、最初の配属先は昭島荘でした。辞令を頂いた時に「救護施設ってどんな施設だっけ?」と焦ったのを今でも覚えています。昭島荘は高齢者支援系グループに所属しますが、利用者のお大半は障害を持っており、単独での生活が困難な方たちです。今まで出会ったことのない多様な人生を送ってきた方々との関わりはとても刺激的で、9年

間とても勉強になる日々を送らせていただきました。

昨年4月に福祉を志すきっかけとなった特別養護老人ホームに異動となりました。10年間介護という介護はしておらず、始めはオムツ交換などの業務に慣れるのかと途方にくれましたが、慣れてくるとそのような業務にも楽しさを見出せるようになりました。

これからも関わる方々の生活を豊かにできるよう、初心を忘れずに精進していきたいと思っています。



表彰者の方々

30年

松田 浩一 (フジホーム居宅介護支援事業所)
坂庭 千穂 (むさしの保育園)
若山 美咲 (昭和郷第二保育園)
野田 泉子 (みなと保育園)
井上 享子 (昭島病院)

20年

谷口 博昭 (フジ・デイサービスセンター)
高本由美子 (新宿区榎町高齢者総合相談センター)
鈴木 直人 (グループホームかえで)
渡部江美子 (原町グループホーム)
関口 和代 (昭島荘)
浅見裕美子 (昭島病院)
大山 秀己 (昭島病院)
清水 弘長 (昭島病院)
沢田弘二郎 (事業局)

10年

馬場 里依 (フジホーム)
村上 恵美 (フジホーム)
椿 英登 (昭島市中部地域包括支援センター)
山田あかね (ニューフジホーム)
宮崎 絵美 (ニューフジホーム)
福島 良 (ゆたか苑)
中村 綾佑 (原町ホーム)
原田 昌枝 (原町小規模多機能居宅介護)
甲斐 昭次 (昭島荘)
長川 帆波 (さやま園)
香川 早紀 (アミニティ富士見)
渡邊英棕捺 (アミニティ富士見)
粟澤 理 (小茂根福祉園)
坂田 瞳 (小茂根福祉園)
佐藤 雄介 (小茂根福祉園)
佐野 茜 (さいわい福祉センター)

相田 晴樹 (むさしの保育園)
藤倉 美咲 (むさしの保育園)
重松 葉子 (むさしの保育園)
大越亜紀子 (大山保育園)
小野寺彩香 (みなと保育園)
蛭名 久子 (つつじが丘保育園)
佐渡 沙織 (つつじが丘保育園)
山中 慶子 (同援はいじま保育園)
倉上 若奈 (ぱれっと)
庄司 亜樹 (昭島病院)
羽村 良子 (昭島病院)
池田 真 (昭島病院)
小澤芽久美 (昭島病院)
根来 諭知 (昭島病院)
松倉 彩 (昭島病院)
菊池美由紀 (昭島病院)
島崎 光代 (昭島病院)



双葉園

いいじま かずのり
施設長 飯島 一憲

子どもの自立にむけて

今年も双葉園を卒園予定の子どもは数名います。特に高校3年生にとっては、進学か就職かいろいろ悩む時期でもあります。卒園する形としては、家庭復帰や里親制度の活用等ありますが、直接社会にでて一人暮らしをするケースも年々増えています。

令和4年度の3月に卒園した方7名中、2名が一人暮らし、4名が支援団体のサポートをうけた中での自立、1名が家庭復帰となっています。また、3名が就職、4名が進学です。

形としては6名がほぼ自分の力で生きていかなければならず、特に双葉園を卒園してからの収入の確保については、職についてもなかなか厳しいのが現状です。18歳成人として法が改正された中ですが、まだまだ暮らしていく上では厳しいものがあります。

家賃の支払い、水道光熱費、食費、授業料等かかる費用はかなりあり、進学している子どもで、奨学金などをもらっている子どもを除けば、全額自力で賄う形になります。在園中にアルバイトをして少しずつお金をためてきた子どももいますが、十分とはなかなか言い切れない状況です。



「卒園した方の就職先施設にて」

児童養護施設の卒園生に対しては、現在、自立支援担当の職員が主にそのアフターケアを行っています。必要に応じて、訪問したり、電話等で悩みを聞いたりして自立のサポートをしています。卒園した子どもの中には、すでに対人関係や自身のモチベーションの低下で仕事や学校に行かなくなってしまっているケースもでてきています。積み重なると家賃の滞納や学校の単位がとれず、進学ができなくなってしまうため、丁寧な支援が必要になってきます。しかし実際には、家を退去しなければならなくなり、自己破産を申請せざるを得ない状況になる子どももいます。

双葉園の業務の一つである卒園生のアフターケアについては、その必要性が益々高まっており、地域の福祉資源などを十分活用しながら取り組んでいきたいと思っています。

むさしの保育園

たけだ ともこ
副園長 武田 朋子

施設として取り組んでいること

むさしの保育園の幼児組が縦割り保育（3・4・5歳児の異年齢児保育）を取り入れるようになって約21年になりました。子どもたちの兄弟的な関係作りから始まり、実践による反省と課題を通して保育の仕方を試行錯誤してきました。縦割り保育については保護者の理解と協力が必要であり、様々なご意見をいただきました。それらをふまえながら時代とともに変化するところは柔軟に対応し、園として大切にしたい保育目標である「健康で明るいいきいきとした子ども」「優しく思いやりのある子ども」「目標に向かい自分で考え行

動できる子ども」を目指すべく、今後も取り組んでいきたいと思っています。

これから求められる保育の在り方について「子どもの人権問題・子ども主体の保育」など、職員がさまざまな研修を受け意識し取り組むようになってきました。その中で保育環境についても考えるようになり、会議の中で話し合い、実践しては反省と課題を繰り返しています。

縦割り保育もクラス単位の活動だけではなく、保育室ごと遊びの種類を分け（例えば制作の部屋・楽器遊びの部屋・運動遊びの部屋・おままごとの部屋等）、好きな部屋で好きな遊びを自分で決め

て自由に行き来できるようにしました。初めは廊下を走り回り特に玄関先が遊び場になり、危険な場面が頻発しました。どのようにしたらいいのかわかりリスク委員で検討し、養生テープで行き止まりの線を引き、子どもだけでは行かないよう目で見てわかるようにしました。簡単な対応策でしたが、保育士が思う以上に子ども達はルールを守って過ごしています。又、子どもの居場所、人数把握ができるよう磁石の名札を使っています。

まだまだ試行錯誤中ですが、子どもが主体的に遊びに参加し、自分で考える体験を通して気持ちが満たされることで、小さな失敗や我慢も乗り越えられるようになってきたのではないかと感じています。これからも子ども達の発達を捉えながら

も時代にあった保育の在り方を模索し、職員一同縦割り保育の学びを深め、縦割り保育がむさしの保育園の要となっていけたらいいと思います。



ゆたか苑

生活相談員 すずき はるか
鈴木 陽日

「ゆたか苑での暮らし」

先日、皆様のご長寿をお祝いさせていただき敬老会を開催しました。

「人生100年時代」を迎え、ゆたか苑でも100歳を超える方が4名在籍され、うち最高齢の方は今年8月で105歳を迎えられました。

今年の敬老会は、ここ数年コロナ禍による感染症対応により、ご家族をお招きすることが難しいので、ご家族や関係者のご協力のもと、長寿の節目を迎えられた方々の半生を振り返り、エピソードやご家族からのメッセージを会場の皆様へご披露させていただきました。普段、意思を汲み取ることが難しい方も奥様からのメッセージを読み上げると大きく目を見開いてお話を耳を傾けている様子がとても印象的でした。また、ご紹介をさせていただき中「趣味で育てたお花を届け、周囲を喜ばせていた方」「お団子屋さんの看板娘」「ヨガのインストラクターとして本場インドまで修行に行かれた方」

など貴重なお話を拝聴することで日頃の様子からは到底窺い知ることが出来ないご利用者個々の輝く人生の一部を垣間見ることが出来たのではないかと思っています。



ゆたか苑では、ご利用者の皆様が施設介護サービスを受けながら生活をしています。普段何気なく日々の生活を過ごしている皆様ですが、今まで歩んできた人生が紡がれて今の生活があります。ご利用者にとっての生活がよりよい良いものとなる様に、ご利用者・ご家族、職員が協働してご本人の未来に繋いでいけたらと思います。

また、その一方でゆたか苑での生活は穏やかなことばかりではなく、加齢に伴う病気の進行や認知・身体機能の低下が現れることもあります。介護・医務・栄養・リハビリ・相談と多職種が手を取り合い、互いの強みを活かした専門性を発揮しながら、ご本人が輝ける生活のサポートが出来ればと思います。

これからも職員一同、自己研鑽に励み、理念である「丁寧でやさしい寄り添う介護」の実践に努めていきたいと思っています。

KOMONEST in 無印良品 ～きらりいいね展～

小茂根福祉園 生活支援員 さかた ひとみ 坂田 瞳

夏休み真っ只中の7月下旬1週間もの長い期間、吉祥寺マルイ無印良品にてアート展示を行いました。今まで、小茂根福祉園単独でのKOMONESTギャラリーは毎年行っていましたが、企業とのコラボ、ましてやアートの展示など初めてでした。

きっかけは、昨年まちのパーラーで行ったカレンダーの原画展がきっかけでした。偶然通りがかった吉祥寺マルイの店長さんが、カレンダーを気に入ってくださり、原画を購入していただいた出会いが始まりでした。「是非、一緒に何かやりましょう！みなさんの素敵な絵を沢山の人の見てもらいましょう！」そんな風に熱い思いをぶつけていただきましたが、正直こういったことはよくあることでしたので、またいつもの感じか……とそんな風に思っていました。事が進展したのは今年に入ってからです。開催日が決まってからは2カ月ほどでの準備となりました。内容については、10人の利用者さんの原画の展示がメインとなりました。10人の利用者さんの原画を展示し、自由に手に取ってもらえるようにディスプレイしました。

ドキドキしながら初日を迎えると、我々の予想をはるかに超えて沢山の皆さんが足を運んで下さいました。無印に買い物に来た方も立ち止まってコラボ商品などを楽しそうに見てくださっていました。もちろん、利用者の方にも店頭に立ち寄りました。展示スペースの一面に置いてあるテーブルの上で、自由に絵を描いてもらったり、水ボトルやバッグなどにペイントをしてもらっていると、買い物ついでに立ち寄った子どもも飛び入り参加するなどの微笑ましい一場面もありました。

今回のサブタイトルになっている「きらりいいね展」という名前は、以前から小茂根福祉園で行っている活動の一つである「きらりグッと！」から名付けています。きらりグッと！とは、利用者の方や職員、地域の人など小茂根福祉園に関わる全ての人のさりげない言動や些細な瞬間にきらりと光るグッとくる瞬間を見つけてみんなで共有しようとする取り組みです。今回の展示でも、利用者のきらりと光る良い表現を来店された方たちに楽しんでもらいたいという思いが込められています。

一つの出会いがきっかけで、吉祥寺マルイ 45 周年祭への絵の出展もさせていただけることになりました。一期一会の出会いが紡がれて、「無印良品板橋南町 22」の1周年祭が11月下旬に行われる予定で、その期間にKOMONESTも展示させていただけることになりました。

沢山の出会いと繋がりを大事にしながら、そしてアートを身近に感じてもらえるように今後も施設を盛り上げていきたいと思えます。



▲「水ボトル」



▲「10人の利用者さんの原画」



「飛び入り参加で楽しいアート!!」



令和5年7月「吉祥寺マルイ無印良品にて」



Café fluffy (カフェ・フラフイー)

東村山生活実習所 就労継続支援B型

オートミールクッキー ￥260

今人気のオートミールにくるみとチョコチップを入れた食べ応えのあるお菓子です！女性に大人気！



アーモンドボール ￥260

卵不使用！サクサクホロホロ食感です♪冬季はスノーボールという商品名で販売します



材料へのこだわり、美味しさへのこだわり、皆さんの笑顔にこだわっています。

オープンカフェもご利用いただき、ゆったりとしたひと時をお過ごし下さい。

※セットものオーダーでお作り致します。お気軽にご相談ください。

【お問い合わせ】 東村山生活実習所 就労担当
TEL 042-394-3771

ベーカリー&カフェ BAKU BAKU(麦²)

立川福祉作業所 就労継続支援B型

黄金メロンパン ￥190

店頭に並ぶ菓子パンの中でもひととき目立つ黄金メロンパン。ふわふわ生地と上にのったバター風味豊かなビスケットのサクサク食感は一食食べたら忘れられない一品。



食パン ￥290

ふわふわ食感と優しい甘さが人気の食パン。100%バターでリッチな味わいも楽しめます。



BAKUBAKUのパンはシンプルですが、原材料を吟味して作っています。

ちょっとふぞろいなパンはみんなが働くしあわせのかたちです。

【お問い合わせ】 立川福祉作業所 BAKU BAKU
TEL 042-527-2721

KOMONEST (コモネスト)

小茂根福祉園 就労継続支援B型・生活介護

刺繍ポーチ

大サイズ(25cm × 32cm)
￥3600

小サイズ(20cm × 23cm)
￥2600



※デザインは一点物のためすべて異なります

e人Tシャツ

サイズ各種
￥2800



KOMONESTは小茂根福祉園が企画・製造している商品ブランドです。障がいのある人の「巣立ち」(自立)を願い、名付けました。

利用者の創作活動や作業に商品力をもった「ものづくり」とは何かをみんなで考え、付加価値をつけKOMONEST商品として発信しています。

【お問い合わせ】

小茂根福祉園 KOMONEST(コモネスト)担当
TEL 03-3958-8831

資格取得のご紹介

次の方が資格取得しました。日頃の業務に活かし、ご活躍を期待します。

■ 社会福祉士

さやま園 生活支援員 金井 紀子

■ 介護福祉士

さやま園 生活支援員 瀧野 裕子

■ 保育士

事務局総務部 事務員 小橋 茉奈

祝

表彰・感謝状
受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方々が表彰されました。おめでとうございます。

【全国社会福祉協議会 会長表彰】

● さやま園
副施設長 柿木 崇

ご支援ありがとうございました (敬称略順不同)

ご寄付

◇(公財)SBI子ども希望財団
◇池田康子

後援会

◇葛西優美◇飯田真知子◇山田雅人◇平尾正二◇川井文子◇幡野信子◇高仲智子
◇ネオ・ハルト(株)◇雪印メグミルク下坪牛乳販売店 下坪唱三◇(有)海老山◇(株)昭和造園◇マツダドライサービス◇(有)ラッコクリーンサービス 代表取締役 佐々木憲寅◇合資会社松野薬局 会長 松野榮仁◇(有)原島組◇(株)ケイエス機材◇(株)五嶋造園 代表取締役 五嶋政吉◇(株)渡辺テント 代表取締

役 渡辺厚志◇浦野工業(株) 代表取締役 浦野静夫◇(株)サン・ホワイト 代表取締役 三宅真◇唐沢電気(株)◇(株)豊明◇ワタキューセイモア(株)東京支店 支店長 野澤和弘◇風間造園(株) 代表取締役 風間修一◇ミートショップの鈴政◇(株)増田コーポレーション◇創洋紙商事(株)◇(有)横手モーターズ◇社会福祉法人村山苑◇昭和の森エリアサービス(株)スマイルケア 昭和の森◇(株)コスモス医工 代表取締役 小林寿男◇(株)木の里工房木薫◇(有)いとう教材社◇(株)オービーエス 代表取締役 小川亘◇昭島ガス(株) 代表取締役社長 平畑文興◇(株)八王子アイスフードセンター◇(株)金井商店 代表取締役 金井務

東京都同胞援護会後援会活動について

東京都同胞援護会後援会は、本会事業を財政的に援助するとともに、社会福祉事業の一層の発展に寄与することを目的とした、地域の皆様や企業の皆様から構成される組織です。

昭和54年、「賛助会」という名称で発足し、平成9年に「後援会」と改称され、平成14年3月の後援会役員会において、組織の見直し、規約改正があり「東京都同胞援護会後援会」として再出発し、現在に至ります。

昨年度活動実績として、個人会員109件(新規41件)、団体会員104件(新規4件)、合計会員数213件(前年比54件増)、会費収入は1,548,000円となっており、昨今も多くの皆様から温かいご支援を頂いております。

収益については、後援会事務必要経費分を除き、本会へ繰り入れられ、施設設備の整備や事業助成金の一部として役立てられています。

近年では、こども学習室の運営費用、新規保育所開設費用、児童養護施設及び保育所の外壁補修費用、昭島病院における新型コロナウイルス感染症患者受入のための設備費用、特別養護老人ホームのエレベーター改修工事費用等に充当しました。

新型コロナ禍以降、感染症拡大防止の観点から

イベント等の実施頻度は減少傾向にありますが、以前までは、本会大規模イベント(納涼の夕べ、昭和郷フェスティバル等)や施設開放行事へも数多く出展されていました。

昨年度は初の試みとして、後援会会員入会特典が設けられました。入会特典は本会障害者支援施設へ受注依頼があり、当該施設の企画製造商品が会員の皆様へ発送されました。受注先施設の利用者様方が一つひとつ丁寧に手掛けられた商品は、温かい思いと共に会員の皆様のお手元に届き、会員の皆様からも好評を得られました。

設立後40年以上に渡る時代の変遷の中でも変わらず、本会施設と利用者の皆様やご家族の皆様、地域の皆様との懸け橋を担い、物心両面から継続支援して頂けることの有り難さを切実に感じています。

今後も本会施設や後援会に関わる皆様と手を携え合いながら、歩みを進めていきたいと思っております。

後援会事務局 岡部



後援会入会特典の一部ご案内

雑感

今年の夏はどこに行くのも躊躇してしまうような暑さでしたが、高齢の母を連れて温泉に行ってきました。若いころは、「登山」や「旅行」が趣味だった母ですが、足を悪くしてからは、面倒がってなかなか外に出ないのが常です。

そんな母が、「旅行に行くなら蓼科牧場のソフトクリームを食べに行きたい」と言い出し、こちらは驚愕! 車に長時間乗っているのも難しい母ですが、「食べたい」という思いが痛さを忘れさせ(?)、テンションを上げ、大はしゃぎで念願のソフトクリームを食べることができました。何時もの車の中での様子との違いにこちらは驚き、嬉しく、楽しい時間を過ごすことができました。(少しは、親孝行になったかな。)

私も「食」に貪欲で、さすが親父だと苦笑いの出来事でした。蓼科牧場のソフトクリーム、ぜひ、食べてみてください。(昭和郷第二保育園 小堀 記)

発行者 理事長 飯山 幸雄
社会福祉法人 東京都同胞援護会
東京都新宿区原町 3-8
電話 03(3341)7161 <https://www.doen.jp>

印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都墨田区両国 4-1-8

令和5年11月4日 発行

